●昭和23年7月8日第3種郵便物認可●毎週2回月・木曜日発行(但し祝日を除く)●発行所〒104-8178 東京都中央区銀座5丁目15番8号 時事通信社 電話(03)6800-1111 ©時事通信社 2008

時事通信社

金融財政

2008年(平成20年) 4月21日 (月) 第9912号 (購読料金 月額税込み5,565円)

アダム・スミスの「遺言」

法テラス(日本司法支援センター)理事 篠塚英子

3月末日でお茶の水女子大学を退職した。大学は出戻りで二度も辞令を頂いたので、最後はひっそりと出て行くつもりであった。だが結局そうもいかず、院生向けの最終講義を手始めに、4回も行う羽目になった。

退職後の雑事の途中に、気になっていた本を引っ張り出した。岩波文庫から出ているアダム・スミス著「法学講義」(水田洋訳)である。大学院の古典を読む会で使用したかったのだが、残念ながらこれも時間切れとなってしまった1冊。訳者によると、スミスがグラスゴー大学の道徳哲学教授として行った法学講義の、学生によるノートが原典だ。「1763年10〜12月の、フランスに渡る直前、大学最終講義とみて間違いない」という。

周知のように、スミスは「国富論」の執筆により、学説史上「経済学の祖」の地位を不動のものにした。経済学者という職業も、スミス以前には存在しない。

道徳哲学者としての集大成は1759年「道徳情操論」(未来社)の刊行であるから、最終講義の4年前になる。この大著の中で、既に「法と統治の一般的原理」についての新たな著作を予告している。そして最終講義から13年後の1776年にまず「国富論」を誕生させ、「道徳情操論」6版の前書きで、予告が部分的に完成したと述べている。

残るのが「法学」に関する部分である。「法学講義」は、法学の一般理論構築につながる部分と経済学に展開される部分から成る。つまり本書は「経済学と法学が生まれていく時の経過点」(訳者)となっている。構成は、第1部が司法序論、公法学、家族法、私法、契約など法律で占められ、第2部は大半の紙数が生活行政(現在の経済学の内容)から成る。残りが軍備、国際法である。

このスミスの最終講義内容は、240年余りの時を隔てた現代日本にもぴったりと照準が当てはまるから驚きだ。私たちの市民生活は過度の市場経済化でゆがんでしまい、身動きが取れない。市民生活のバランスを取り戻すには、経済と司法の均衡が今こそ必要である。それは、遅れていた司法の力を市民に届けること。

経済と法律を社会の両輪にと願ったスミスの最終講義の意図を、ここに見た。

CONTENTS

●インタビュー 重要性高まる監査制度
—最前線の担当者に聞く〈1〉
—関哲夫日本監査役協会会長…… 2
●BANCO (金子太郎)…… 3
●照一隅 女性と企業収益(泰久)…… 5
●国際経済
豪中銀、引き締めサイクルいつまで?…… 6
●マーケットレーダー
漂流する欧州金融市場(森脇和重)…… 9
●解説 命脈つないだ福田政権、
遠のいた総辞職・解散(増山栄太郎)
—小沢戦闘モードに亀裂……10
●カラム・コラム (藤原作弥)……13
●国際経済 ASEAN諸国、08・09年も
成長持続へ(松村 淳)
—世界的な景気減速は新興国に及ぶか……14
●海外誌紙に見る日本の評判……18
●インサイド(疎水)……19
●北風・南風 北陸銀行(富山)……20